

平成22年度麻布大学同窓会茨城県支部総会

真夏日が続いた7月25日(日)、水戸市内のホテルにおいて、茨城県支部総会を開催しました。総会では、田原支部長(昭和33年卒)の議事進行の下、事業及び決算報告等がなされ、原案が承認されました。また、本部代議員会議結果が報告されるとともに、支部組織強化に向けて新たに幹事会で具体案を検討していくことを確認しました。この後、宮崎県における口蹄疫に際し、現地での防疫作業に携わった会員から詳細な状況報告がなされ、一同、防疫体制の重要性を再認識しました。同窓会本部からは、来賓として当地水戸出身の和田恭則先生にご臨席を賜り、総会開催へのご祝辞とともに「大学の近況と魅力ある大学であるために」とのテーマでご講演をいただきました。

総会后、懇親会が開かれ、アルコールが回るにつれて、母校や淵野辺・矢部の変貌振り、学生時代の失敗談や恩師の昔話などに花を咲かせました。ご来賓の和田先生は当地の出身でもあり、会員の茨城弁にも違和感のないご様子で楽しくご歓談いただきました。当日は先生を含め26名の参加者があり、昭和24年卒から平成16年卒までの全員で寮歌を斉唱するなど、老壮青が「麻布」の同窓として一体感を共有し、思い出に残る楽しい夏のひとときを過ごすことが出来ました。

後日談になりますが、和田先生には、帰路、天候の急変に伴う猛烈な雷雨の影響で、常磐線特急の車内に5時間近く缶詰にされ都内での宿泊を余儀なくされるというアクシデントに見舞われましたこと、天候のこととは申せ深くお詫び申し上げます。

麻布大学の卒業生は県内に約330名おりますが、同窓ネットをさらに働かせ支部の組織強化や活性化を図っていきたいと考えています。そのためにも、他県の状況を参考にしたり、大学祭への参加など様々な試みを工夫することが重要であろうと思います。

最後になりますが、麻布大学及び同窓会のますますの発展と同窓生のご健勝を祈念申し上げます。

(昭和54年卒 鈴木睦夫 記)

